

【取組内容③】 端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実等

◇家庭学習充実の実践

○オンラインドリルの活用

難易度別のドリルがあり、繰り返し練習できる。児童が習熟度にあった教材で学習できる。すぐに正誤判定されるので自分の進捗で学習できる。教師にとっても丸付けなどの負担が減る。学習回数や正答率など自分の頑張りが可視化される。

○Googleアプリの活用

ジャムボードやスライドなどのアプリを活用して、自分の考えを表現、整理、可視化などを行う。
 （具体的に）読書記録、授業中で使用した教材の活用、学習の振り返りなど



社会の学習で学んだことをジャムボードでまとめる。個人でまとめる作業は宿題として行い、授業の中で考えを出し合い、グループでの交流に活用した。

◇連絡手段としての活用

・Google Classroomで翌日の連絡を行う。

→連絡帳を書く時間の短縮、端末に触れる機会の創出

【児童の変容】

- ・連絡帳や家庭学習にICTを取り入れることで、タブレットに触れる時間が増え、ICT活用の能力が向上した。
- ・ジャムボードやスライドなどのアプリを活用することで、意欲が高まったり、思考を深めたりすることができた。

【教職員の変容】

- ・児童の課題の進捗状況を確認することで、児童の課題やつまずきが分かりやすくなり、指導にいかすことができるようになった。